

実質化された人・農地プラン

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
富加町	加治田東部(栃洞・片町・新町・中部)	令和4年1月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	27.6ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	17.2ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	15.2ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	7.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.4ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

・高齢化が進んでおり、5年先以降の担い手の確保が未定である。
 ・法人とみかは、同一地域である加治田東部についても、集積を進めたいが、人員不足により集積できない状況にある。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・5年程度は現状の耕作を続けていき、その間に法人とみかと農地集積の協議を進める。

・農地の貸借だけでなく、人(オペレーター)を含めて、法人とみかとの協力体制や農地集積の可能性を検討していく。

・先祖代々からの土地は自分で守っていくという意識は尊重しつつも、入り作等も交えて集積を検討し、農地を守っていく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。